

# 音楽科学習指導案

令和6年10月　　日（　）第　校時  
中学校　年　組　名  
指導者

1 題材名　　音楽の構造や背景を感じながら音楽を味わおう

2 題材の目標

- (1) 「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。
- (2) 「ボレロ」の構成を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- (3) 「ボレロ」の曲の構成やオーケストラの楽器の奏法による音色の違いや豊かさに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

3 教材　　「ボレロ」　ラヴェル作曲

4 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく活発で興味があることに対しては積極的に取り組むことができる生徒が多い。しかし、授業に集中できない生徒もあり、生徒指導面において少し課題がある生徒もいる。集中力を途切れさせないために、鑑賞の授業においては、聴き取らせたい要素を絞って鑑賞させ、曲想と音楽の構造とを関わらせて聴かせるようにしている。一方で、鑑賞の観点を捉えられなかったり、音楽を形づくっている要素を聞き取ったりすることが苦手な生徒もいる。今後の授業においては、さらに学習内容を明確にし、聴き取らせたい要素や感じ取らせたい要素をより焦点化していく必要があると感じている。

(2) 教材について

この曲はラヴェルがバレエ音楽として作曲した。楽曲全体を通して、二つの旋律が交互に現れ、同じリズムが繰り返し演奏されている。打楽器で刻まれるボレロのリズムや楽曲全体にわたる強弱の変化、オーケストラの楽器の組み合わせによる多彩な響きを味わうことができる楽曲である。

### (3) 指導に当たって

この曲の基本的な構成や構造について理解するために、リズム、旋律、低音パートを個人で演奏し、グループでアンサンブルを行い、演奏を体験させることによって、より主体的に鑑賞する態度が育まれると考える。そして、音楽の要素がどのように変化し、どのように効果をもたらしているのかを考えさせていきたい。鑑賞させる部分を絞り込み、聴く観点を明確にし、聴き取ったことをクラスで共有し、意見交換をすることで様々な気付きを引き出せると考える。また、楽曲全体を通して聴き、構成について整理しながら批評文を書くことによって、学習の深化を図りたい。これらの活動を通して楽曲の魅力に迫りながらラヴェルの意図したオーケストレーションを理解し、今後の学習につなげたいと思い、本題材を設定した。

## 5 本題材で扱う学習指導要領の内容

### 第2学年及び第3学年 B 鑑賞 (1) 鑑賞

ア (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わつて聴くこと。

イ (ア) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。

#### [共通事項] (1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「構成」)

## 6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 「ボレロ」の構成を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 「ボレロ」の曲の構成やオーケストラの楽器の奏法による音色の違いや豊かさに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

## 7 指導と評価の計画（本時2/3時間）

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習内容	評価（◆評価方法）			
		知	・技	思	態
1	◎リズムに着目し、楽曲の特徴を捉え、楽曲に関心をもつ。  ●楽曲を聴き、楽曲の特徴を捉える。 ・「ボレロ」の音楽の仕組みがどうなっているか最後まで楽曲を聴き、「ボレロ」の特徴を捉える。 ・曲想と音楽の構造を結び付ける。  ●「ボレロ」のリズムに着目し、楽曲を通してそのリズムが演奏されていることを理解する。 ・リズムを実際に叩くことで、リズムの特徴や楽曲における効果を感じ取る。				
2 (本時)	◎前時で学習したことをもとに、旋律や音色に着目して音楽の構造への理解を深める。  ●2つの旋律に着目し、その旋律から感じられるイメージを捉える。 ・2つの旋律の規則性や雰囲気などの特徴について考える。  ●楽器ごとの音色による旋律の曲想の違いを感じる。 ・タブレットを活用し、楽器ごとの音色の違いを感じる。	◆発言 ◆ワークシート 知			
3	◎楽曲がつくられた背景を理解し、作者の意図を考えながら、楽曲の魅力についてまとめる。  ●「ボレロ」の楽曲の背景や作曲者について理解する。 ・楽曲が作曲された背景とラヴェルの人生について学習する。  ●「ボレロ」の音楽の特徴や面白さを考えながら楽曲を鑑賞する。 ・楽曲の魅力を伝える紹介文を書く。		◆発言 ◆ワークシート 思	◆発言 ◆ワークシート 態	

## 8 本時の学習

(1) 目 標 楽譜や演奏をもとに、「ボレロ」の音楽の構造の特徴を理解する。

(2) 展 開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1 前時の授業を振り返り 本時の目標を確認する。 ・「ボレロ」のリズムを復習する。	○授業が始まる前に音源をかけておき、前時の授業内容を思い出させる。 ○本時の学習活動の流れを説明する。 ○前時の意見から旋律と音色に焦点を絞り、パワーポイントにまとめた意見を確認する。		構成
	旋律や楽器の音色から「ボレロ」の特徴を考えよう		
2 指定された部分の旋律の特徴を考える。 ・ペアで考えたことを共有し、発表する。	○弦楽器が演奏している部分の旋律を聴かせたり、歌わせたり、体を動かせたりさせて、旋律の特徴をつかませる。		
3 音色に着目し、2つの旋律の曲想が変わることを学習する。 ・A、Bの指定された楽器の旋律を聴き、違いをワークシートに記入する。 ・班で考えたことを、全体で発表する。 ・他の生徒の意見を聴き、考えを深める。	○タブレットで指定した楽器の音源を聴いて確認させる。 ○聴取させたい内容や、旋律と楽器の写真をホワイトボードやパワーポイントに提示する。  ○班の中での役割を決め、班活動をさせる。 ○班でどのような意見が出たか、全体で共有し、音源を聴いて理解を深めさせる。	◇「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 ◆ワークシート知 ◆発言	
4 本時のまとめとして、授業を振り返る。	○学習したこと振り返りながら、次時の授業で「ボレロ」の紹介文を書くことを伝える。		

(3) 評価及び指導（手立て）

〈知識〉

A「十分満足できる」と判断される具体的な状況	「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりを理解し、知覚と感受を関わらせながら、「ボレロ」の旋律の構成について具体的に意見を書いている。
B「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）	教師が例文を提示したり、他の生徒の意見を参考にさせたりしながら、「ボレロ」の構成の特徴について意見をまとめさせる。